

全体の結果 《アンケート結果の分析と大学としての対応・改善策》

回答率

全学の回答率は21.5%、学科別では臨床心理学科30.4%、生命医科学科30.0%、臨床福祉学科23.9%、薬学科20.9%、動物生命薬科学科19.4%、言語聴覚療法学科16.7%、臨床工学科10.0%、作業療法学科5.9%、スポーツ健康福祉学科5.8%でした。

「プロフィール」設問 1～5

「設問2 学年」別における回答の割合は1年生30.3%、2年生27.5%、3年生14.6%、4年生19.2%、5年生6.7%、6年生が2.1%でした。前年度と比較して2年生の回答率が上がり1・6年生は下がりました。

「設問3 性」別に関しては、男性が32.5%、女性が66.7%でした。前年度と比較して男性の回答率が高くなっています。

「設問4 通学手段」は自動車が40.8%と最も高く、次いでバスが25.4%、自転車が12.9%、電車とバスが10.4%の順でした。前年度と比較して自転車、バス、電車とバスが増加し自動車の比率が下がりました。前年度と比較して公共交通機関の利用が増えました。

また、「設問5 通学時間」は30分以内が76.7%で、次いで30～60分が12.5%でした。前年度と比較して60分以上の比率が高くなりました。通学手段の結果を踏まえると、延岡市街からの通学が増えたと思われます。

「大学生活について」設問 6～26

「設問6 講義以外での生活サイクルの中心」は自宅自習が26.3%、次いでアルバイトが22.1%、学内自習が17.9%でした。前年度と比較してアルバイトの比率が高くなり、学内自習や図書館での自習、クラブ・サークル活動が低下していました。

「設問7 クラブやサークル活動の頻度」は、全くしていないが79.2%と高く、年に数回が7.5%、週に1～3回が7.1%でした。前年度と比べて、若干、全くしていないの比率が下がり年数回の比率が上がりました。

「設問8 アルバイトの頻度」は、全くしていないが49.2%で半数を占め、次いで週1～3回が31.7%、週4～6回が9.6%、年数回が5.8%でした。前年度と同様の結果でしたが、週に1～3回が増加していました。

「設問9 入学前後に本学のイメージ」は64.6%の学生で変わっていないものの、14.2%の学生が悪くなったと回答し、20.8%が良くなったと回答していました。前年度と比較して良くなったの比率がやや増加しました。

「設問10 大学キャンパス内で主にいる場所」は、63.8%が講義棟でした。その他を除くと食堂が21.3%、図書館が8.4%でした。昨年度と比べて講義棟と図書館は減少し、食堂とその他が増加していました。とくに食堂は7.1%から21.3%に増加しており、新型コロナウイルス感染拡大措置が解除されたことが影響していると思われます。

「設問11 休日・長期休暇の過ごし方」では、帰省が52.9%と最も高く、次いでアルバイト46.3%、旅行が22.9%でした。前年度と比べてアルバイトと旅行が増加していました。

「設問12 学費どのように工面していますか」は、親・親戚からの援助が77.9%、奨学金が60.8%、アルバイトが15.8%でした。前年度と比べて、奨学金は増加していました。

「設問13 一人暮らしをしていますか」は、62.5%が一人暮らしで、家族との同居が34.6%でした。前年度と比べて一人暮らしが減少し、家族との同居が増加していました。

「設問 14 家族と同居、親戚等と同居している場合の生活費/月」は、3～5 万円が 31.0%、3 万円未満が 27.4%、5～10 万円が 22.6%でした。前年度と比べて、3～5 万円が増加し 3 万円未満と 5～10 万円未満が減少していました。

また、この場合の「設問 15 生活費はどのように工面していますか」は、親から親戚から貰う 73.8%、アルバイト 34.5%、奨学金 29.8%の順でした。前年度に比べて奨学金と親・親族から貰うの比率が高くなりました。

「設問 17 一人暮らし・友人と同居の場合の家賃、水道光熱費を除いた生活費」は、親から貰うが 71.5%、奨学金 42.4%、アルバイト 38.4%の順で、家族等との同居に比べて奨学金の比率が高くなっていました。昨年度と比べるとアルバイトが増加していました。

「設問 16 一人暮らしをしている場合の生活費/月」は 3～5 万円が 45.0%と最も高く、次いで 3 万円未満が 27.2%、5～10 万円が 23.8%でした。前年度と比べると、3～5 万円は減少し、5～10 万円が増加していました。

「設問 18 好きな講義・実習はいくつありますか」は、2～4 つとの回答が 57.1%、1 つが 22.9%、1 つが 10.8%である一方で、なしが 22.9%でした。前年度と比較すると、なしの比率は減少し、2～4 つの比率が増加していました。

「設問 19 大学生活での悩み」は、勉強や成績のことが 50.0%、進路や就職のことが 45.8%と高く、経済的問題 27.5%、友人関係 16.3%、健康の問題 12.1%、同級生との関係 9.2%でした。悩みはないとの回答したのは 30.0%でした。この結果は昨年度とおおむね同様でしたが、経済的問題の比率が 10%程度高くなっていました。

「設問 20 悩みの相談相手」は、友達が 92.9%、親・兄弟姉妹等の身内が 73.8%と高い回答がありました。教職員関係では、チューター教員が 35.1%、チューター以外の教員が 11.3%、学生相談室が 3.6%、事務職員が 1.2%でした。前年度と比べると友人や同級生、身内への相談が増加し、誰にも相談しないが 23.2%から 19.6%に減少しました。

「設問 21 休学や休学したいと思ったことがあるか」は 20.8%があると回答し、前年度と比較して 2.3%減少していました。

「設問 22 休学の理由、休学したいと思った理由」は、心身の問題が 34.0%、進路に疑問が 24.0%、学力の問題が 14.0%でした。前年度と比較すると進路に疑問が 22.6%増加していました。

「設問 23 留年経験」は、12.1%があると回答しました。昨年度と比較すると 2.1%増加していました。

「設問 24 留年した場合に大学に何をしたいか」については、経済的支援が 37.9%、学力の支援 31.0%、心身の支援 17.2%で、前年度とまったく同じ順でしたが、経済的支援が増加していました。

「設問 25 退学を考えたことがある」は、16.3%があると回答しました。

「設問 26 退学を考えた理由」は、心身の問題が 23.1%、進路に疑問と学力の問題がともに 17.9%、経済的問題と勉学意欲の喪失が 15.4%でした。前年度と比較して、経済的問題と進路に疑問が増加していました。

「自主学習について」設問 27～29

「設問 27 平日（講義以外）の 1 日平均勉強時間」は、30 分～60 分が 38.3%と最も高く、60～120 分が 25.4%、30 分未満が 17.9%、120 分以上が 12.1%でした。前年度と比べると、60 分未満の比率が増加していました。

「設問 28 休日の 1 日の平均勉強時間」は、30～60 分未満が 27.9%と最も高く、60～120 分と 120 分以上が 24.6%でした。前年度と比べると 120 分以上が減少し、30 分未満が増加していました。

「設問 29 シラバスに予習・復習についての記載」について、知っていると回答したのは 93.3%で、知らないと回答したのは 6.3%でした。前年度と比べると知っているの比率が増加しました。

「大学としての対応・改善策」

大学全体として早期に対応を検討したいのが、まず、休・退学への支援です。ともに「心身の問題」と「進路に疑問」が上位にありました。大学生活の悩みにおいても「勉学や成績」について「進路や就職」の比率が高くなっていました。本学は医療・福祉専門職を養成する大学であるため、入学直後から専門科目に取り組むことになります。科目に興味関心が得られないと進路に疑問が生じることが考えられます。キャリア教育等を通じて医療・福祉専門職を目指す動機づけを進めていきます。